

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	山 口 県
-------	-------

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	豊浦町立室津小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	2	8	13
児童数	13	17	15	14	26	12	2	99	

研究の概要

1. 研究主題

確かな学力を身につけ、自ら学び自ら考える子どもの育成

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

全学年 算数(子どもの理解度に差が出やすい教科であるため)

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ 確かな学力を身につけ、自ら学び自ら考える子どもの育成</p> <p>仮説 算数科において、児童一人一人の理解の状況や習熟の程度に応じたきめ細かな指導を実施したり、教材開発を工夫したりして、個に応じた指導を行えば、基礎的・基本的な内容が定着し、「確かな学力」が身につけていくであろう。</p> <p>研究内容・方法 計 画</p> <ul style="list-style-type: none"> - 1学期 - ・実践研究計画立案 研究主題・実践研究内容・方法づくり 実践研究計画，研究成果の普及方法の策定，実践研究の組織づくり ・実践研究推進のための教育課程の工夫 ・実践研究の年間スケジュールの作成 ・意識調査・実態調査(児童・保護者)の実施 - 2学期 - ・先進校の視察，情報収集 ・実践研究への訪問指導(教育事務所) ・フロンティアスクール間での情報交換 - 3学期 - ・1年次の研究成果と課題のまとめと分析(研究集録の作成) ・2年次の研究推進への方向づけ <p>内 容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習習慣の確立 ・基礎学力に関する実態把握
--------	---

- ・ノート活用の研究
- ・話し方（説明の仕方）の基本形づくり
- ・学習形態の研究（TT，習熟度別）
- ・CRT 検査による学力調査
- ・少人数学習に関する意識調査

方 法

- 1年次は基礎・基本の基盤づくりを行う
- (1) 児童の実態を把握する
- ・学習への取組に対する実態把握
 - ・学力テストからの不足している力の把握
- (2) 学習習慣を育てる
- ・聞き方や話し方の基本形をつくり，各学年の合わせて段階的に指導するための目安とする。
 - ・算数科においての基本的なノートの指導を行う。
- (3) 「読む・書く・計算」の習熟を図る。
- ・朝学時間に，「読書タイム」「視写タイム」「計算タイム」を設定して，「読む」「書く」「計算」等の基礎的な学力の定着をめざした継続的な取組をする。
 - ・算数科においては，授業のはじめに計算力を培う時間を設定し，継続的な取組をする。
- (4) 個に応じた指導の工夫を行う
- ・小規模校の特性を生かすとともに，少人数担当を有効に活用して，個へのかかわりを大切にされた複数で指導する体制づくりをする。
 - ・子ども一人一人が学習のどこでどのようにつまづいているのか，実態を調査・分析し課題を明らかにするとともに，全職員が連携して日常的に個への指導にあたれるようにする。

平成
15
年度

テーマ

確かな学力を身につけ、自ら学び自ら考える子どもの育成

仮説

算数科において，児童一人一人の理解の状況や習熟の程度に応じたきめ細かな指導を実施したり，教材開発を工夫したりして，個に応じた指導を行えば，基礎的・基本的な内容が定着し，「確かな学力」が身についていくであろう。

研究内容・方法

計 画

- 1学期 -

- ・2年次の実践研究計画の立案
- ・実践研究内容，方法の修正，焦点化
- ・実践研究体制・組織の修正
- ・実践研究推進のための教育課程の工夫
- ・実践研究の年間スケジュールの作成
- ・意識調査・実態調査（児童・保護者）の実施
- ・1年次との比較検討，分析

- 2学期 -

- ・実践研究推進（研究内容・方法の実施）
- ・先進校の視察・情報収集
- ・フロンティアスクール間の実践の情報交換

- 3学期 -

- ・2年次の研究成果と課題のまとめと分析（研究集録の作成）
- ・実践研究の成果を公開
- ・3年次の研究推進への方向づけ

内容

- ・ 基本的生活習慣の確立
- ・ 学力調査
- ・ 学習に対する意識調査
- ・ 学習形態の研究 (TT, 少人数指導等)
- ・ 発展的・補足的な学習内容の研究

方法

- (1) 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善を行う。
 - 個に応じたきめ細かな指導の工夫
 - 発展的内容・補足的内容を考えた単元計画
 - 一人一人を生かす机間指導の工夫
 - ・ 学習支援のあり方
 - ・ T1とT2の情報交換のあり方
 - 指導体制の工夫
 - TT・少人数指導
 - ・ 協同・協力学習指導
 - ・ 習熟度別学習指導
- (2) 基礎・基本の確実な習得及び個に応じた指導のための教材開発
 - 発展学習及び補充学習の教材開発
 - 思考を深めるための教材開発 (レッツ・トライプリント)
 - 計算技能を確実に定着するための教材開発 (チャレンジプリント)
- (3) 一人一人の子どもの学習状況を見取り, 指導に生かす評価のあり方
 - 授業において一人一人の学習意欲を高める評価の工夫
 - 学びを振り返る自己評価の工夫
 - 一人一人のよさを認めるノートの活用
- (4) 一人一人の子どもの学びを支える学習環境の整備
 - 教育課程の工夫
 - 朝学の時間の活用
 - 打ち合わせの時間の確保
 - 学習環境の整備
 - 基本的な生活習慣, 学習習慣の形成
 - 学習室の工夫

平成
16
年度

テーマ

確かな学力を身につけ、自ら学び自ら考える子どもの育成

仮説

算数科において、少人数指導方法を取り入れ、問題解決の学習や習熟を
図る学習を仕組んでいけば、分かって、できて、生かしていける子どもが育
ち、基礎・基本の確実な定着が図れるだろう。

研究内容・方法

計 画

- 1 学期 -

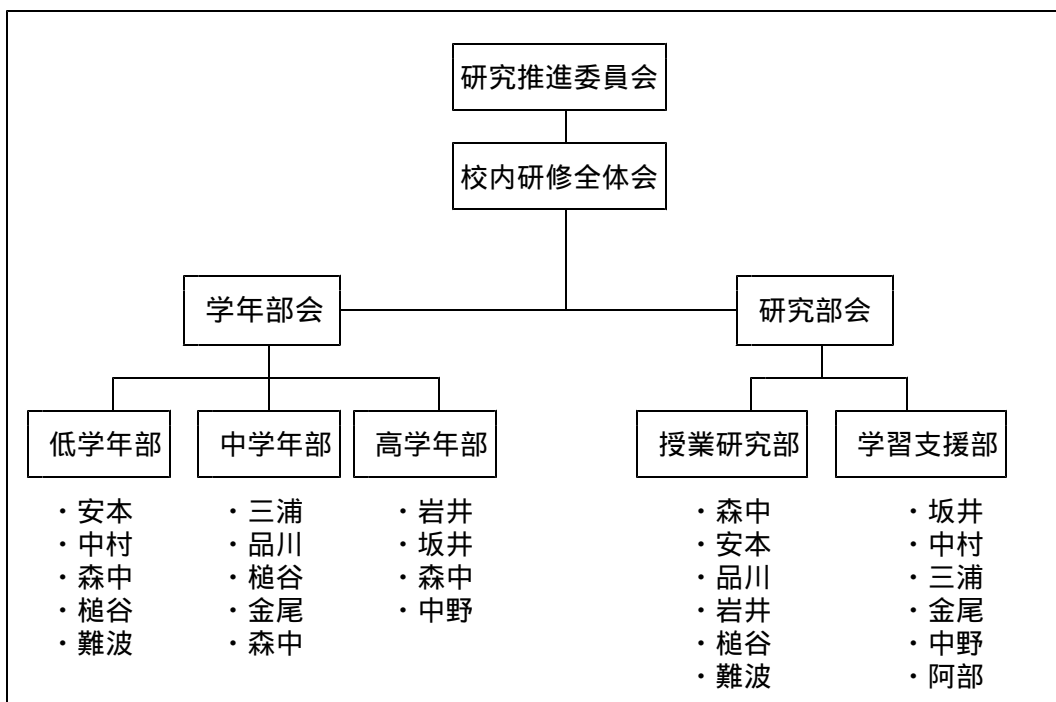
- ・ 1, 2 年次の研究の成果や課題を踏まえた実践計画の修正
- ・ 実践研究内容, 方法の修正, 焦点化
- ・ 実践研究体制・組織の修正
- ・ 実践研究推進のための教育課程の工夫
- ・ 実践研究の年間スケジュールの作成
- ・ 意識調査・実態調査 (児童・保護者) の実施
- ・ 1・2 年次との比較検討・分析

- 2 学期 -

- ・ 実践研究推進 (実践研究内容・方法の実施)
- ・ フロンティアスクール間の実践の情報交換, 参観

- 3 学期 -
- ・ 3 年次の研究成果と課題のまとめと分析（研究集録の作成）
- ・ 実践研究の評価
- ・ 次年度の研究推進の方向づけ

(3) 研究推進体制



平成 15 年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

算数科に焦点を当てて全学年において T T 指導や少人数指導を取り入れたことにより、個に応じたきめ細かな指導体制の展開が可能になった。

単元の特性や児童の発達段階に応じて、少人数指導や一斉指導の場面を柔軟に指導計画に設定したことにより、それぞれの指導体制の長所を生かした指導を組み立てることができた。

発展学習や補充学習を取り入れた単元計画を設定することで、児童の実態に応じた指導が可能になり、一人一人の児童が主体的に学習に取り組み、個に応じた学習を保障できるようになった。

算数的活動を積極的に取り入れたことは、児童の多様な考えを引き出し、学習内容の理解を助け、学習に対する興味を喚起・持続させながら、学習内容の定着を図ることに役立った。

毎時間学習感想を書かせたり、児童によるコース選択を継続的に行ったりすることにより、児童の自己評価力が高まってきた。

ワークスペースや特別教室など様々な学習の場を工夫することにより、少人数指導を効果的にできるようになった。

全校一斉の計算室津カップ、朝学における「チャレンジプリント」は、計算力の向上に効果的であった。

思考力を育てる「レッツ・トライプリント」は朝学のみならず、休み時間にも取り組む児童が増え、算数への興味・関心が高まってきている。

2. 今後の課題

全学年の算数科で年間を通してT T指導や少人数指導を行ったが、「基礎・基本」の捉え方をより一層追求し、単元の内容や児童の実態を的確に把握しながら、さらに効果的な指導方法の工夫を行う必要がある。

習熟度別学習を行う際のコース分けの方法や指導場面をさらに工夫し、発展的な学習や補充的な学習をより一層取り入れた学習を展開する必要がある。

T T指導、少人数指導を行う際に、指導や評価に関する担当者同士の話し合いが十分に確保できなかった。今後さらに指導と評価に関する十分な意見交換をどのような方法で確保するか検討しなければならない。

学力定着の大前提である基本的な生活習慣や学習習慣がまだ十分に育っていない。根気強い取組を家庭と連携しながら今後も継続していかなければならない。

楽しく、分かる授業を行うために、児童の自己評価や相互評価の方法等、一人一人の見取り方の工夫に関して、さらに研究を深めていかななくてはならない。

学力等把握のための学校としての取組

- ・CRT 検査（年1回 2月初旬）
* 少人数指導を取り入れた成果の把握及び今後の指導に生かすための学力調査
- ・計算室津カップ（年1回 2学期末）
* 朝学及び授業始めの5分間を使った基礎計算学習の継続的な取組による各学年の既習問題を使つての基礎計算力の実態調査

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・フロンティア事業地区協議会での研究報告及び情報交換
（平成16年1月28日 豊浦町立室津小学校 下関管内小中学校教師及び保護者）
- ・学校、学年便りや参観日等を利用して、保護者をはじめ地域の方への情報発信をする。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無